兄と魚

小川未明

青空文庫

正二は、夏のころ、兄さんと川へいっしょにいって、とってきた小さな魚を、すいれんの入っている、大きな鉢の中へ入れて、飼っていました。

そのうちに、夏も過ぎ、秋も過ぎてしまって、魚は川にいれば、もう暖かな場所を見つけて冬ごもりをする時分なのに、鉢の中では、そんなこともできませんでした。

寒い風が、野の上や、森をふく、ある日のことでありました。

「おや、魚が死んでいる。正ちゃん、早くおいで。」と、庭へ出た兄さんが呼びました。

「かわいそうに。」と、正二はいいながら、走ってそのそばへいきました。

鉢の中には、水がいっぱいあって、すいれんの葉は、いつのまにか枯れて、水の底の方に沈んでいました。

「これは、たなごだね。」

「こいみたいだな。」

「いいや、たなごさ。かわいそうに、こんなにやせてしまって、栄養不良で死んだのだよ。」と、兄は手のひらにのせて、悲しそうに、ながめていました。

「僕、ときどき、ふをやったんだけれど。」と、正二がいいました。

「川にいれば、いろいろのものを食べるから、大きくなるのだけれど、こんないれものの中では、ほかに食べるものがないだろう。正ちゃん、あとの二匹をかわいがってやろうね。」と、兄さんは、底の方にかくれるようにしている魚をのぞきながらいいました。

正二は、自分たちのいった川は、いま冷たい水が、ゴウゴウと音をたてて流れているだろうと思うと、あとの二匹をその川へ逃がす気にもなれなかったのです。

「兄ちゃん、あとのは、かわいがってやろうよ。」

「ほかのいれものに移して、お家の中へおこうね。そうして春になったら、また、ここへ入れることにしよう。」

「ごはんつぶをやろうか。」

「冬は、あまりものを食べないものだ。それより、あたたかにしてやるほうがいいのだよ。」

正二は、兄が手に持っている魚をどうするだろうと思って見ていました。

「正ちゃん、手すきを持っておいで。」と、兄は、いいました。

正二がものおきから、手すきを取り出してくると、兄はつばきの下に穴を掘りました。

「ああ、ここへうめてやるのだな。」と、正二が見ていると、兄は、落ち葉を探してきました。正二は、なにをするのだろうと、黙って見ていると、穴の下へその枯れ葉をしきました。そして、死んだ魚をその葉の上へのせました。それからまた、枯れ葉をその上へいて、土をかけたのであります。

終わりまで、黙って、これを見ていた正二は、やさしい兄の心持ちがよくわかりました。

「いい兄さんだな。」と、思いました。

「川でとってきてから、こんなに長くいたんだもの、あとの二匹を殺しちゃ、僕たちが悪いのだよ。どうかして、この冬を越すように、かわいがってやろうね。」と、兄さんはいいました。

正二も、そうだと思いました。部屋へおくようになってから、寒

い晩は、水をこおらせないようにしました。また、お天気になると、縁側へ出して、日の光に当ててやりました。

ある日、正二は、雑誌にのっているお話を読んでいるうちに、おやと、びっくりしました。なぜなら、それには、こう書いてありました。

「私は死んだ金魚をどぶの中へ捨てる気にはなれませんでした。穴を掘って木の葉をしき、その上へのせて、また葉をかけて土にうめてやりました。」

「うちの兄さんと同じことをしたのだ。なんというふしぎなことだろう?」

正二は兄のところへかけてゆくと、

「兄さん、これを読んでごらんなさい。」と、雑誌を出しました。

「なんだい、童話だね。そんなにおもしろいのかい。」

「ここんところだよ。」と、正二は、書いてあるところを指さしました。

兄は、黙って読んでいました。しばらく、なにもいわずに考えていましたが、そのうちに、

「ははは。」と、大きな声で笑いました。

「兄さんと同じだろう、この人、兄さんのしたことを知っているのかなあ。」と、正二は、頭をかしげました。

「そんなことはないよ。正ちゃん、だれでも人というものは、正直であれば、おんなじことを考えるんだね。僕ばかりかと思ったら、そうでなかった。だからよくお話さえすれば、どの子もみんないいお友だちになれるんだよ。」と、兄はいいました。小さな正二くんも、なるほどなと、うなずくことができたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集　13」講談社
　　1977（昭和52）年11月10日第1刷発行
　　1983（昭和58）年1月19日第5刷発行
底本の親本：「僕はこれからだ」フタバ書院成光館
　　1942（昭和17）年11月
初出：「こくみん三年生」
　　1940（昭和15）年12月
※表題は底本では、「兄《あに》と魚《さかな》」となっています。
入力：特定非営利活動法人はるかぜ
校正：酒井裕二
2018年5月27日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

兄と魚

小川未明

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/